

**この説明書・保証書は大切に保管してください。**

自転車を安全で快適にご使用頂くために、必ずお読みください。



お子様が自転車を使う場合は、事前に保護者の方が本書を必ず読んで、正しい乗り方と危険なこと、してはいけないことをよく指導してください。不適切な取り扱いや調整は人身事故につながる危険があります。警告・注意・禁止・強制事項は必ずお守りください。



**お子様が乗る自転車に、**  
**別のお子様を近づけないようにしてください。**

チェーン、ギア、ホイール等の各駆動部分により、  
重傷を負う危険があります。

一台の自転車を取り合ったり、お子様同士で支える等しないように、  
よく注意、指導してください。



特に、押し手棒つきのモデルでは、  
お子様の乗る自転車を別のお子様には押しさせないでください。

This manual has important information on safety. Please have someone who can read Japanese to explain the contents in detail.

## 保証書について

- 保証書は、本書にとじられています。大切に保管してください。
- 保証書は、「販売年月日／販売店名／ロット番号／車体番号」などの記入を確かめて、お店からお受け取りください。  
※ 販売店名の記入のあるもののみ有効となりますのでご注意ください。
- ※ 「ロット番号」の記入がもれている場合は、フレームに貼ってあるシールを見て、お客様ご自身で記入をお願い致します。

## 警告表示について

※警告表示は、危険性の程度に応じて次の区分で示しています。特にご注意ください。  
※間違った取り扱いや調整は事故につながる危険があります。警告・禁止・注意・強制事項を必ずお守りください。



**警告**： 取り扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。



**禁止**： 危険の程度とは関係なく、道路交通法で禁止されている行為。または、当自転車の保証範囲外の行為。



**注意**： 取り扱いを誤った時に使用者が障害を負う危険が想定される時及び、物的損害のみの発生が想定されるもの。



**強制**： 使用者に必ず実行して頂きたい事。

## 目次

- |                      |             |                   |              |
|----------------------|-------------|-------------------|--------------|
| ■ 1) 各部のなまえ          | ————— P1    | ■ 6) お手入れと保管      | ————— P10~11 |
| ■ 2) 正しい使用条件         | ————— P1    | ■ 7) 防犯登録について     | ————— P11    |
| ■ 3) 安全のために必ずお守りください | ————— P2~4  | ■ 8) 定期点検用チェックリスト | ————— P11    |
| ■ 4) 各部の取り扱い方と調整方法   | ————— P4~7  |                   |              |
| ■ 5) 乗る前の点検          | ————— P8~10 |                   |              |

**People** 発売元 ピープル株式会社 〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-15-5 VORT東日本橋

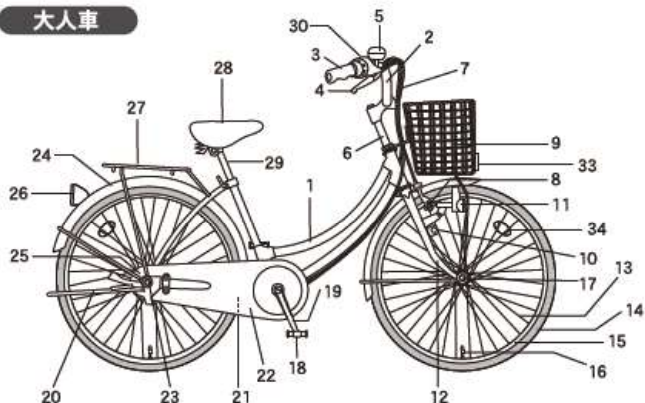
●商品のお問い合わせはお客相談係まで TEL 03 (3862) 3739 ※電話受付時間：月～金（祝日を除く）10:00～12:00・13:00～16:00  
FAX 03 (3862) 3730 ピープルホームページ・・・ <https://www.people-kk.co.jp/> ※製品の仕様は、品質向上のため、予告なく変更する場合があります。  
そのため、取扱説明書のイラストと製品の形等が、多少異なる場合があります。また、同一製品の中でも多少異なる場合があります。予めご了承ください。

# 1) 各部のなまえ

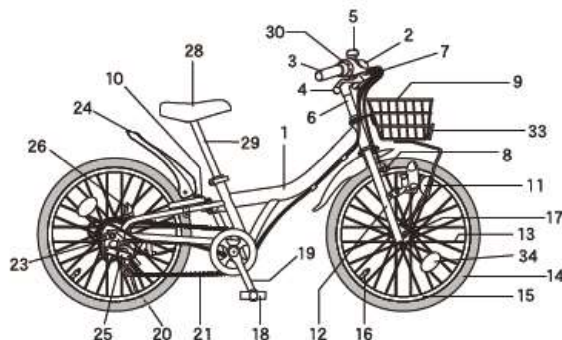
図で説明しているのは一般的な仕様です。お客様がお求めになられた商品とは一部異なる場合があります。

※ここで説明する自転車は一般道路用の自転車です。凹凸の激しいオフロードは走行できません。 ※詳しくは、販売店でおたずねください。

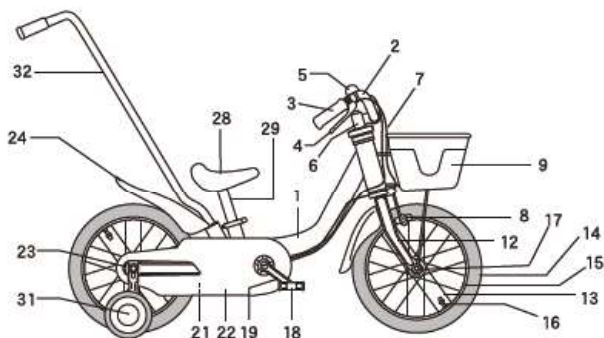
大人車



子供車 (20~24インチ)



幼児車 (12~18インチ)



No.	名称	No.	名称	No.	名称
1	フレーム	13	スポーク	25	変速機
2	ハンドル	14	タイヤ	26	リアリフレクター
3	グリップ	15	リム	27	リアキャリア
4	ブレーキレバー	16	タイヤバルブ	28	サドル
5	ベル	17	フロントハブ	29	シートポスト
6	ハンドルポスト	18	ペダル	30	シフター
7	ブレーキワイヤ	19	クランク・チェーンリング	31	補助輪
8	ブレーキ	20	スタンド	32	押し手棒
9	カゴ	21	チェーン	33	フロントリフレクター
10	錠	22	チェーンケース	34	スポークリフレクター
11	ライト	23	リアハブ		
12	フロントフォーク	24	泥よけ		

## 2) 正しい使用条件

### ■標準常用速度及び乗員上限体重

スピードの出し過ぎは危険ですので安全速度を守ってください。

※乗員上限体重は、設計の際に想定した上限体重（質量）で、当製品は右記想定にて基本設計をしております。従って基準を著しく超える方が乗用された場合、消耗・劣化度合いが大きくなりますので、品質保証致しかねることもあります。予めご了承ください。

車種	幼児車		子供車
	12・14・16インチ	18インチ	22インチ
常用速度 (km/h)	5~8		8~18
乗員上限体重 (kg)	25	35	40
	30 (※いきなり自転車16インチ)		

### ■走行の際、お子様は、必ず自転車用ヘルメットを着用するようにしてください。

道路交通法第 63 条の 11 より、「児童・幼児（13 歳未満の者）を保護する責任のある者は、児童・幼児を自転車に乗車させるときは、自転車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければなりません」と定められています。

### 3) 安全のために必ずお守りください【警告・注意事項】

お使いになる人や他人への危害、財産への損害と自転車の損傷を未然に防止するために、必ずお守り下さい。



#### 警告 (守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。)



**山岳、河川などでは絶対に使用しない**  
一般道路での使用を目的とするものであり、急坂登降、段差走行等、道路以外の場所(オフロード)を走行する事は禁止です。



**二人乗りやアクロバット走行等をしない**  
二人乗りは法律で禁止されています。

ハブステップの取り付け、二人乗りは禁止。



アクロバットのな乗り方は禁止。



**並走の禁止**

二台以上で走行する時は、縦一列で走行してください。



**無灯火で乗らない**

夜間、ご乗車の際は必ずライトを点灯してください。ライトの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすい効果があります。



- ・ライトが装備されていない車種には別売のライトを必ず取り付けてください。
- ・ライトがつかないときは、押して歩いてください。
- ・ライトが破損した場合はすぐに交換してください。



**凹凸の激しい所を走らない**  
ハンドルを取られたり、ふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて、押して歩いて下さい。



**走行以外の事(踏み台等)に使用しない**  
転倒のおそれがあります。



**スポークの間に固形物(ボール等)を入れて走らない**  
ボールが移動し、ブレーキ等に接触し、転倒のおそれがあります。



**手やハンドルに荷物をかけたりペットをつながない**

荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、ケガのおそれがあります。



荷物は前カゴに入れて下さい。



**積載条件を超える荷物をカゴに積まない**  
荷物を積めるのは、カゴのみです。大きさ、重さは前頁の“正しい使用条件”を守って積んでください。また、傘や釣り竿を車体に差し込んだり、吊り下げたりしないでください。車輪をロックさせたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。



**グリップがゆるんでいる場合は乗らない**  
ハンドルからグリップが取れると事故のおそれがあります。グリップがゆるい場合は、自転車店等ですぐに交換してください。



**回転部分には触れない**  
前後輪・クランク・チェーンリング・チェーン部など動く部分は、絶対に手、足で触れないでください。



**ブレーキの制動面に注油しない**  
ブレーキに関係する箇所の内、リム・ブレーキゴム・後ろブレーキのドラム内等には、絶対に注油したり、油布等でふいたりしないで下さい。ブレーキがきかなくなり危険です。(P10 参照)



**ハンドルやサドルは限界標識線が見える所で固定しない**  
ハンドルやサドルは限界標識線が見える所で固定しないで下さい。差し込みが不十分になると折れや抜けを起こし、事故・ケガのおそれがあります。



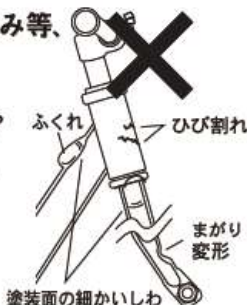
限界標識線



**指定箇所以外の調整、及び改造をしない**  
取扱説明書に記載されている以外のパーツを取り付けたり、指定調整箇所以外の箇所を調整したり改造する事はやめてください(セット内容に含まれていないパーツを取り付けることは改造になります)。不当な改造が起因とされる故障は保証の対象外となります。※ハブステップの装着も危険な改造です。



**変形やひび割れ、ネジのゆるみ等、異常のある時は乗らない**  
フレームやフロントフォーク、クランクやペダル等の部品に変形やひび割れがある場合は絶対に乗らないで下さい。走行中に壊れて事故・ケガのおそれがあります。異常のある部品は、すぐに交換して下さい。絶対に曲げ戻して修理をしないで下さい。



ふくれ ひび割れ  
まがり変形  
塗装面の細かいしわ



**視界の悪い時は使用しない**  
無理に乗らずに、手で押して下さい。



**片手運転は禁止**  
危険回避など、急な操作ができずに衝突や転倒するおそれがあります。





# 警告 (守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。)



## 交通ルールを守る

交通ルールを守らないと事故でケガをしたり、他の人にケガを負わせるおそれがあります。



## 走りながら足でダイナモライトの操作をしない

ライトは必ず停車し、手で操作してください。足での操作は足や靴が車輪に巻き込まれ転倒する恐れがあり危険です。



## リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない

リフレクターは後続の車両からの確認をする上で大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用下さい。



## クイックレバーの締め付けは保護者の方が確実にこなう

クイックリリースのレバーやネジの締め付けがゆるいと、転倒、事故、ケガの恐れがあります。保護者の方がしっかり固定してください。また、お子様に手を触れさせないようにしてください。手をはさんだりして事故・ケガの恐れがあります。



## 歩行者に危害を及ぼす恐れがある突出物を装着しない

歩行者等に危害を及ぼす恐れがある突出物の装着を禁止します。傘やステッキ、釣竿、バット、たたき棒等の搭載はやめてください。また、ハブステップの装着も禁止です。車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。



## ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、制動距離が長くなり、かつ、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。



## 幼児の夜間走行の禁止



## カゴにペットを乗せない



## 車輪やサドル・ハンドルの締め付けを確認せずに自転車に乗らない



## カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故を招きます。



## カーブではブレーキをかけない

横滑りを起こし、転倒する危険があります。



## カーブで曲がる側のペダルを下げない



## 滑りやすい所では乗らない

積雪や、凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ等での運転はスリップ等をして大変危険です。自転車を降りて押して歩いて下さい。



## スタンドを完全に跳ね上げていない状態で乗らない

カーブの時スタンドが地面と接触し、転倒によるケガのおそれがあります。



## 走行中にブレーキワイヤを引っぱったり、曲げたりしない



## 乗る時は安全な服装で

マフラーや裾の長いスカートなど運転のしにくい服装はやめてください。滑りやすい靴やかかとの高い靴などを履いて乗らないでください。足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。



## 雨、雪、強風の時は乗らない

悪天候の時、自転車に乗らないようにして下さい。特に、雨、雪の場合ブレーキが効きにくく、事故や転倒のおそれがあり危険です。



## 片側ブレーキはかけない

片手だけのブレーキ(特に前輪ブレーキ)をかけるとバランスをくずして転倒し、ケガのおそれがあります。必ず、前後両方のブレーキをかけて止まるようにして下さい。



## 急ブレーキをかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。前方に注意して安全走行をして下さい。



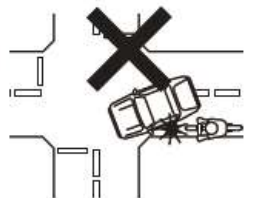
## ギアチェンジ(シフト操作)は一度に二段以上しない

一気にギアチェンジをするとチェーンが外れることがあり大変危険です。一段ずつチェンジしましょう。



## 自動車の左折車に注意

車道の左側を走っている自転車が、左折する自動車に巻き込まれる事故がよく起きます。左折車には十分注意しましょう。



## 駐輪時の注意

- 駅前や商店街など自転車に乗って行った先で自転車を放置してはいけません。
- スタンドを立てる際は必ず平坦な場所を選んで立てて下さい。
- 自転車使用後は、ブレーキに手を触れないで下さい。熱くなっている箇所がありますのでやけどのおそれがあります。
- 駐輪禁止の場所には駐輪しないで下さい。
- 盗難を防ぐため、カゴの荷物は必ず持って行って下さい。
- なるべく直射日光、雨等をさけて駐輪して下さい。
- 必ずカギをかけて下さい。



## 泥よけの取り扱いについて

泥よけに乗ったり、荷物を乗せたり、持ち運ぶ時に持ったり無理な力をかけると、変形、破損のおそれがあります。乱暴な取り扱いはやめて下さい。



## 警告 (守らなかった場合、死亡事故・重傷を負うおそれがあります。)



**衝突や転倒した時には**  
衝突や転倒をした際は、必ず自転車各部を点検して下さい。  
異常がある場合は販売店に相談して下さい。



**自動車の横を走り過ぎるときは  
スピードを出さない**  
自動車のドアが急に開き  
衝突する危険があります。



**ショルダーバッグ (1本ひものバッグ) を背  
中に提げて自転車に乗る場合は、バッグが動  
いて運転がしづらくなるので注意する**  
特にバッグのひもが長いと、バッグが自転車の後輪錠など  
に当たって誤動作する場合があります。



**走行中、くつ先が前輪や前泥よけに接触しない  
ようにする。**  
前輪の回転により、足が巻き込まれて事故を起こす危険が  
あります。また、泥よけ等の部品が破損するおそれがあり  
ます。



**食べたり飲んだりしながら乗らない**  
片手運転と前方不注意により、事故を起こすおそれがあります。



**ヘッドフォンやイヤホンを使用しながら  
乗らない**  
周囲の音が聞こえにくくなり、事故を起こすおそれがあります。



**走りながら携帯電話や  
音楽プレーヤーを  
かけたり、操作しない**  
片手運転と前方不注意により、  
事故を起こすおそれがあります。



**長い下り坂などでのブレーキのかけっぱなし  
はしない**  
ブレーキの制動部が発熱して、ブレーキがきかなくなり、  
衝突や転倒によるケガのおそれがあります。前後どちらか  
のブレーキレバーを時々はなして発熱を抑えてください。  
特にバンドブレーキやローラーブレーキは発熱しやすいの  
でご注意ください。



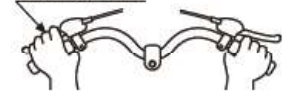
## 警告 前輪ロックに注意! <ブレーキのかけ方>



※前輪ロックとは、走行中に前輪の回転が瞬間的に  
急停止することです。衝突と同じくらいの衝撃が  
あり、前のめりに頭から転倒し、大事故につなが  
ります。必ず後ろブレーキを先にかけ、次に前ブ  
レーキをかけるように習慣づけてください。



左を先にかける。



特に幼児には、保護者の方がブレーキレバーに  
指がきちんとかかることを確認した上で、ブ  
レーキ操作のやり方をくり返し教え、操作がで  
きることを確認するようにしてください。

前輪がロックされる原因には以下のような場合が考えられます。  
安全には十分注意して走行しましょう。

- ハンドルにぶら下げたバッグ等が、前輪や前輪と車体との間に入った時。
- 前カゴに入れたバンドや細長いヒモ状のもの等が、前輪の間に入った時。
- スピードを出していて、前ブレーキのみをかけた時。
- スポーク切れやその他の原因でリムが横揺れし、タイヤが車体に接触した時。

- ライトのダイナモを足先で蹴って倒すとき頭で足を車輪の間に突っ込んだ  
とき。又、そのときダイナモが車輪の間に入ったとき。
- 衝突などでフロントフォークが曲がっていたり、ネジがゆるんでいたりで、  
ブレーキゴムがタイヤにあたった時。
- 外部からの異物が車輪の間に入り込んだ時。
- 前輪のネジがゆるんでいて、車輪が傾いてタイヤが車体に接触した時。

## 4) 各部の取り扱い方と調整方法

安全確保のため、調整はお子様には絶対にさせないようにして下さい。次の調整を確実にし、正しい取り扱いをお願いします。これを怠りますと、思わぬ事故につながります。ご不明な点がございましたら、お客様相談係かお買い求めの販売店、お近くの自転車店等におたずね下さい。

### 正しい乗車姿勢

- 正常な乗車姿勢がとれるよう、ハンドルとサドルの高さを乗車する方の体格に合わせて  
ください。疲れず、安全に走るには、正しい乗車姿勢をとる事が基本です。サドルに座  
り、両手をグリップにおいた状態で、下記の点を確認してください。  
※お子様がお使いになる場合は、成長に合わせて常に正しい状態で使用できるよう、保  
護者の方が気をつけて調整してあげてください。

- ①両方の足先が確実に地面につくこと。
- ②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず安全にハンドルの操縦操作ができること。
- ④円滑にペダルをこぐ事ができ、ブレーキ、ベル等が安全に操作できること。
- ⑤ハンドルのグリップ最上部と、サドルの座面中央部の高さの差が30cm未満になっていること。

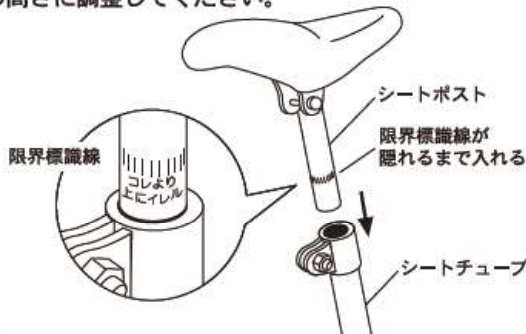
※ペダルを後付けできる車体で足付き状態で乗るときは、両足がピッタリと地面につき、ヒザが曲がるくらいの低さに調整してください。



## サドルの調整

### ■サドルの高さ

サドルに腰をおろし、ペダルを一番下にして足を乗せた時、ヒザが軽く曲がる程度の高さが適当です。お子様や初心者の方は、両足つま先が地面に確実に接するくらいの高さに調整してください。

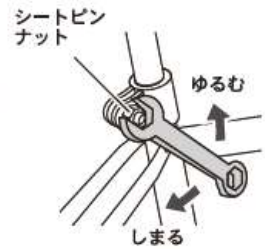


最も高くした場合でも、シートポストの限界標識線が見えなくなるまで挿入してください。サドルのシートポストが折損してケガの恐れがあります。

### サドル高さの調整方法

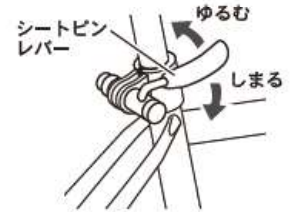
#### ●シートピン式の場合

シートピンナットをスパナで反時計回りに回すと固定が緩み、サドルを上下に調整できます。固定する場合は時計方向に回して締め付けます。



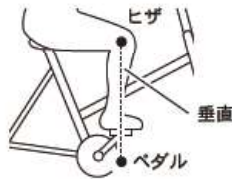
#### ●レバー式シートピンの場合

シートピンレバーを反時計回りに回すと、シートポストが緩みます。固定する場合は、時計回りに回して締め付けます。



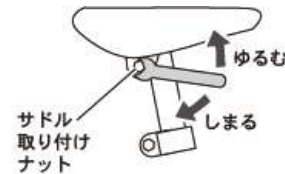
### ■サドルの前後位置

サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せた時、ヒザの中心からの垂線がペダルの中心を通る様にするのが標準です。



### サドルの前後位置の調整方法

サドルの前後位置は、サドル取り付けナットを反時計回りに緩めて調整します。調整後サドル前先端をフレームの中心に合わせて、サドル取り付けナットをしっかりと締め付けてください。



## ハンドルの調整

### ■ハンドルの高さや角度

サドルに腰をおろし、ハンドルを握った時に肩やヒザに余分な力が入らず、上体がリラックスできるくらいの高さが適当です。

#### ハンドルの高さ調整

ハンドルポストの引上げボルトを反時計回りに2~3回緩めます。アーレンキーまたはスパナを使用してください。固定が緩みポストが上下に調整できます。

※引上げボルトを緩めてもハンドルポストが動かないときは、ボルトの頭に木片等を当てて軽くたたいてください。

※ハンドルの締め付けトルクは、16N・mで設定しています。過度な力での締め付けはパーツの変形や破損の原因となりますので、おやめください。



最も高くした場合でも、ハンドルポストの限界標識線が見えなくなるまで挿入してください。ハンドルポストが折損してケガの恐れがあります。

#### ハンドルの角度の調整

ハンドルバー締め付けナット（ボルト）を緩めることで調整できます。自転車にまたがりグリップを握ったとき、両腕が軽く曲がるくらいが丁度良い角度です。手首に負担がかからないかどうか、確認してください。



## ブレーキの調整方法

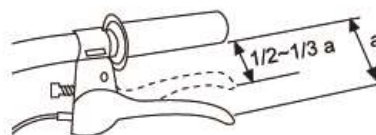
- 長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、効が悪くなっていきます。常にブレーキが効くように調整して下さい。

前・後ブレーキ共にアジャストボルトをゆるめるとブレーキレバーのあそびが少なくなります。ブレーキレバーを引いてすきまが1/2~1/3になるまでにブレーキが効くよう、調整して下さい。アジャストボルトにはロックナットが装着されているので、一度ロックナットをゆるめてからアジャストボルトを調整して下さい。調整後はロックナットを締め付けて下さい。



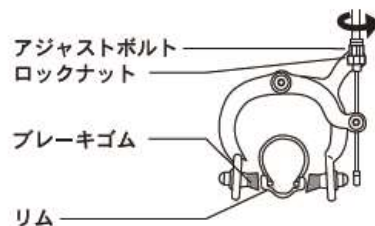
ブレーキ各部はこの説明書に記載されている以外の調整を絶対に自分で行わないで下さい。

### 【ブレーキの作動範囲】



※すきまが1/2~1/3になるまでにブレーキがよく効くこと。  
※レバーの作動が重くないこと。

### 【前ブレーキ】



### 【後ブレーキ】

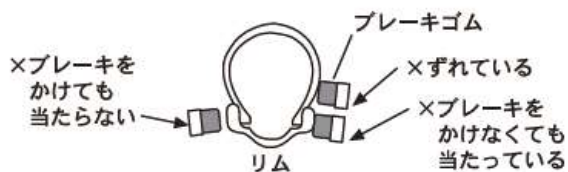


次の場合には自転車店等にご相談下さい。



ブレーキワイヤは消耗品です。金属のワイヤにほつれ・切れがあればすぐに交換して下さい。ブレーキの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり危険ですので、すぐに販売店で調整を受けてください。

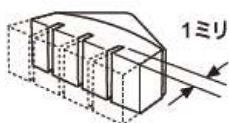
- ブレーキゴムがリムに当たったままになっている。
- ブレーキをかけた状態でブレーキゴムがリムからずれている。



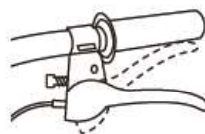
- アジャストボルトで調整しきれない。



- ブレーキゴムが磨耗して、溝の残りが1ミリになった。



- ブレーキの効が悪くなった。



## タイヤの空気圧

- タイヤの側面に表記されている空気圧の範囲でご使用下さい。

表示例 — (○○○KPa、○○Kgf/cm<sup>2</sup>、○○PSI)

(注)換算率 — 1KPa=0.01Kgf/cm<sup>2</sup>=0.145PSI

### 【空気圧の簡易測定のしかた】

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判断します。地面との接地面の長さが約7~8cmになるように空気を入れて下さい。



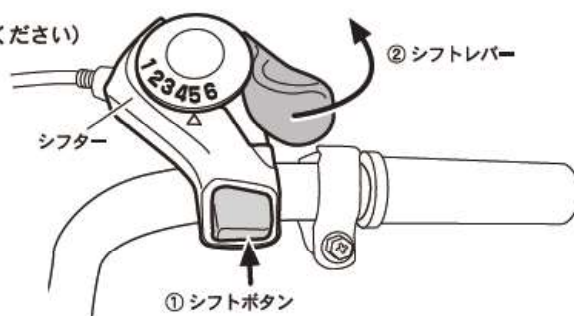
空気圧が適切でないと、タイヤの接地面積が広がって走行抵抗が増し、ペダルをこぐのが重くなります。また、タイヤの摩耗やバンク、リムの変形の原因になります。必ず適切な空気圧を保って乗車して下さい。

## 変速機の取り扱い

●変速機は、坂道や風向きなどの走行条件の変化に応じてギアを変え、ペダリングの速さ、踏力を一定にして疲れを少なくする装置です。ボタンとレバーで変速機を作動させ、チェーンをかけ変えてギア比を変えます。

●ギアの切りかえ方（※切りかえは必ずペダルをこぎながら行ってください）

- ①のシフトボタンを押すと、  
ダイヤルの数字が 1→2→3→4→5→6 と変わり、  
ペダリングが重くなります。
- ②のシフトレバーを矢印の方向に押すと、  
ダイヤルの数字が 6→5→4→3→2→1 と変わり、  
ペダリングが軽くなります。



●変速機は、坂や風の状態、体調などによって、最適の変速位置を選んでください。



下っている時は、後ろブレーキをかけながら、  
スピードが出過ぎないようにコントロールしてください。

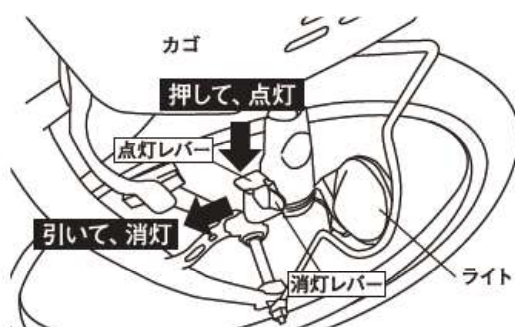


坂の途中では変速がしにくいので、  
坂の手前で早めに変速操作をしてください。

### ●操作上の注意

- ・ペダルを止めたまま、または逆回転させながら変速すると変速機・チェーンを痛め、故障の原因になります。
- ・ペダルを強く踏みながら変速したり、一気に変速すると、チェーン・ギアの寿命が短くなりますので避けてください。
- ・長期間変速機を使用しない場合、シフトワイヤが伸び、円滑にギアを変えられない場合があります。  
自転車店などで定期的な点検・調整をしてください。（有料）
- ・チェーンがよく外れたり、円滑に操作できないときは調整が必要です。調整は必ず自転車店などに依頼してください。（有料）  
（変速機は微妙な調整が必要です。むやみに調整ネジを回すとさらに調子が悪くなる場合があります。）
- ・ギアを必要以上に変えると、チェーンが外れるおそれがあります。

## ライトの取り扱い方



### ①ライトのつけ方

点灯レバーを下に押しして下さい。

### ②ライトの消し方

消灯レバーを矢印の方に引いて下さい。



- 夜間及び暗い所を走行するときは、必ずライトを装備し、点灯することが法律で定められています。
- 走りながら、足でライトを操作しないで下さい。  
ライトは必ず停車して、手で操作して下さい。

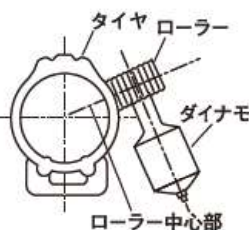
■ライトの調整 ライトは走行の安全上正しい取扱いが必要です。

### ●ダイナモの位置

ダイナモの中心線延長がハブの中心にあっているか確認してください。取付けがゆるんでダイナモが前に傾いた状態での走行は車輪に挟まれる恐れがあり危険です。販売店に相談してください。

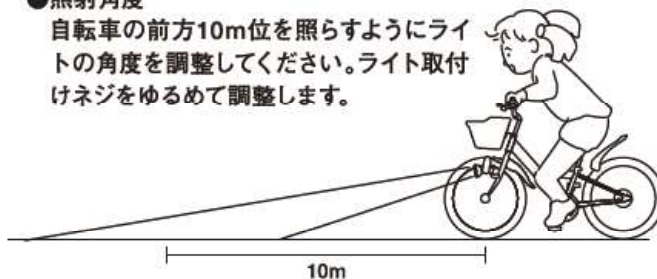


- 点灯レバーを押し、ダイナモを駆動状態にしたときローラーの中心がタイヤに接触しているか確認してください。



### ●照射角度

自転車の前方10m位を照らすようにライトの角度を調整してください。ライト取付けネジをゆるめて調整します。



### ●電球の取り替え

電球を取り替える時には同じ仕様の電球を自転車店等で確認の上、交換補充するようにしてください。



## 5) 乗る前の点検



点検は必ず保護者の方が行ってください。

### 乗る前の注意



#### まず体に合わせる

P4～P7の「各部の取り扱い方と調整方法」を参考に保護者の方がお子様の体格に合わせて正しく調整してください。



サドルの高さは両足先が地面につくように



#### 必ず点検をして下さい

乗る前には必ず保護者の方が点検をしてください (P9の「日常点検と調整のポイント」参照)。分からない点はお客様相談係か自転車店等に相談してください。



#### 乗る練習は

練習をするときは、空き地や公園などの安全な場所で行いましょう。



#### 安全な服装で

車輪に巻き込まれやすい服装はしないで下さい。ズボンのすそや汚れやチェーンへの巻き込みを防止するためズボンはズボンバンドで止めて下さい。靴はかかとが低い滑らないものを履いて下さい。



#### 初期点検及び定期点検は

購入後2ヶ月以内はネジのなじみなどの影響でゆるみなどが生じやすいので2ヶ月以内に初期点検を受けてください。またその後は1年ごと及び異常を感じた場合に、自転車店等で点検をうけてください(有料)。



定期点検、整備を受けていないと保証の対象外となる場合があります。

安全に乗っていただくため、上記に注意するとともに、次ページ以降にある日常点検と調整を実施してください。

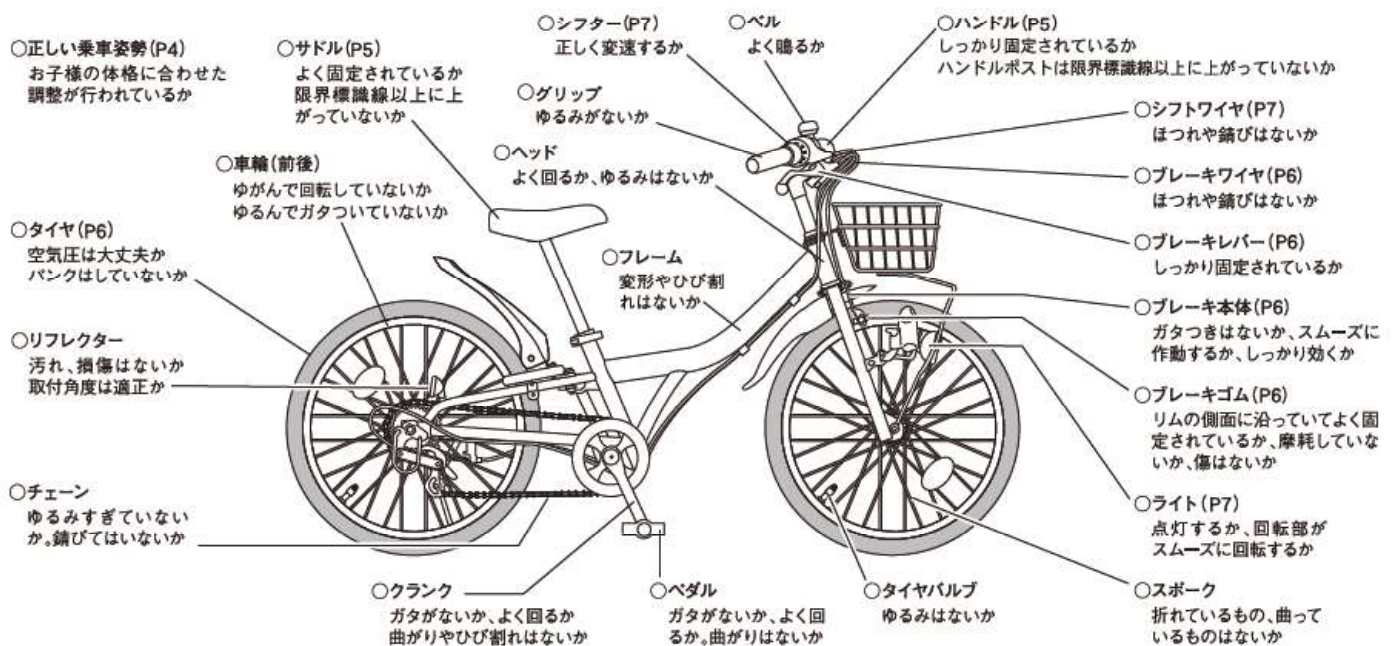


## 日常点検と調整のポイント

安全に乗っていただくために、乗車前に次の点検を実施してください。点検、調整後は試乗を行ってください。異常があった時や不明な点があるときは、乗車せずにお客様相談係か自転車店等にご相談ください。



ブレーキワイヤ、シフトワイヤは、金属のワイヤにほつれ・切れがあればすぐに交換してください。タイヤは接地面の溝が一部でもなくなる前に交換してください。ブレーキゴムは制動面の溝が残り1ミリになる前に交換してください。



### ①正しい乗車姿勢が取れますか。

サドルに座った時、サドル、ハンドル、ブレーキレバーの位置は適正ですか。(P4「正しい乗車姿勢」参照)

### ②サドルの調整箇所はしっかり固定されていますか。

P5を参考に確実にシートポストを固定し、下記の点検により確認してから乗車してください。

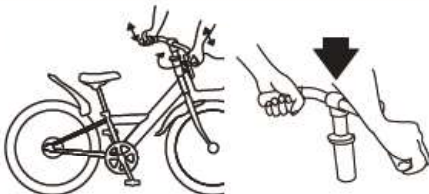
フレームとまっすぐに取り付けられていますか。大人がサドルの前後を持って上下、左右に力を加えてもガタつきや動きはありませんか。



### ③ハンドルはしっかり固定されていますか。

P5を参考に確実にハンドルポストを固定し、下記の点検により確認してから乗車してください。

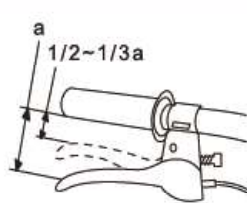
前輪に対して直角に取り付けていますか。大人が左右のハンドルグリップをもって前輪を両足にはさみ上下左右に回そうとしてもガタつきや動きはありませんか。図のように両手で押し下げて動かないこと、また、グリップがゆるんでいないかを確認してください。



### ④ブレーキはよく効きますか。

左右のブレーキレバーを握って操作した時、ブレーキレバーとグリップとの間が1/2~1/3aになるまでにブレーキが効きますか。(P6参照)

※お子様の指がブレーキレバーに届いているか必ず確認してください。また、ブレーキのかけ方をくり返し教え、ブレーキが操作できることを確認してください。



### ⑤車輪はしっかり固定されていますか。

自転車を持ち上げて、タイヤを上から強く叩いた時、車輪がしっかり固定されていますか。



### ⑥タイヤはバンクしていませんか。

乗車する時はバンクの確認をしてください。タイヤを押さえてへこむ場合はバンクしている可能性があります。バンクした場合はお近くの自転車店等で修理してください。

### ⑦タイヤの空気圧は十分ですか。

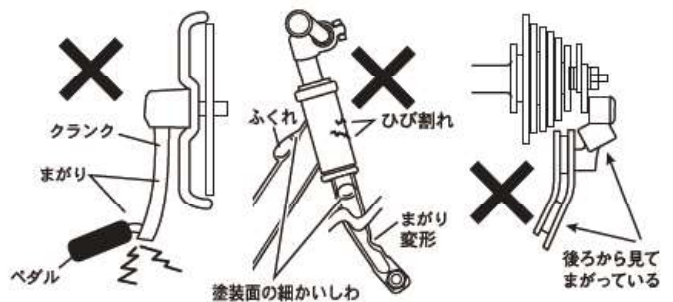
目安として、乗った時に地面との接地面の長さが7センチくらいになるのが標準です。空気圧が低すぎるとタイヤの破損が早くバンクの原因となります。(P6参照)



### ⑧フレームやフロントフォークの変形やひび割れはないか、変速機、ペダルやクランクに変形、まがり、ゆがみ、ひび割れ、塗装の細かいしわ等はありませんか。



変形している部品は、自転車店で必ず交換、修理をするようにして下さい。



まがりを直しての再使用は絶対にしないで下さい。破損によるケガのおそれがあります。

### ⑨チェーンはゆるみ過ぎていないか。錆びていないか。

定期的に自転車店で点検を受け、ゆるみが大きくなったら交換してください。ゆるみが大きくなると、走行中にチェーンが外れやすくなり、大変危険です。

### ⑩変速機は正常に作動しますか。

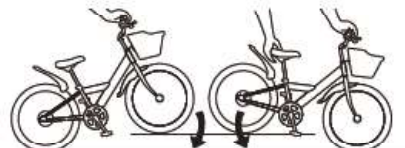
クランクを回転させながらシフトボタンを操作したときギアチェンジ（変速）はスムーズか。チェーンが外れないか。

### ⑪ライトは点灯しますか。

ライトが点灯しますか。回転部がスムーズに作動しますか。

### ⑫各部のネジはゆるんでいませんか。

自転車の前輪と後輪を別々に持ち上げて（10～20センチ）軽く落とし、異音や取付けのズレがないか確認します。異音はネジやナットのゆるみか原因です。



## 6) お手入れと保管 安全と品質保持のために

【日常のお手入れ】 乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。

- 雨など水にぬれたときはよく乾燥させた後、下図の箇所注射油してください。
- 塗装部（フレーム）のお手入れ——乾いた布でよく拭き、自動車用のワックスをかけ、乾いた布でよく拭き取ってください。
- メッキ部（ハブ等）のお手入れ——乾いた布で汚れを拭き取り、「錆び止め油」か「機械油」を塗った後、余分な油を拭き取ってください。
- 錆びやすい場所（海岸、湿気の多い所）に置く時はお手入れの回数を増やしてください。
- 塗装やメッキ部分に傷がついた時は、すぐにお手入れしないと水分や湿気により、損傷箇所から錆びが発生しやすくなります。その際は、すぐに乾いた布で汚れを拭き取り、「錆び止め油」か「機械油」を塗った後、余分な油を拭き取っておいてください。

<注意> 以下の場合も錆びの原因となります。

- ① 灰き火の煙がかかった場合。特にビニールを燃やした煙がかかると錆びやすくなります。（塩化物を含む物質の燃焼時に塩素が発生し、塗装面やメッキ層に浸透して錆びが浮いてくると考えられます。）
- ② ジュース等の飲料水等がかかったまま放置した場合
- ③ 工事現場や金属加工場近くで金属粉が付着した場合

#### ご注意

- シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。
- 回転部分（チェーンホイール、車輪、チェーン等）には手を触れないでください。
- サドル、リム、グリップ、ブレーキレバーには、ワックスや油がかからないように注意してください。

### 標準予備部品について

ブレーキワイヤ、シフトワイヤ、かじとりワイヤ、ブレーキゴム、タイヤ、チューブは消耗品です。自転車店等で取り扱っておりますので自転車を持参して、適合したものに交換修理してください（有料）。

- ・ タイヤ、チューブについては、サイズを指定してお買い求めください。
- ・ その他の予備部品については販売店にご相談ください。

### 注油について

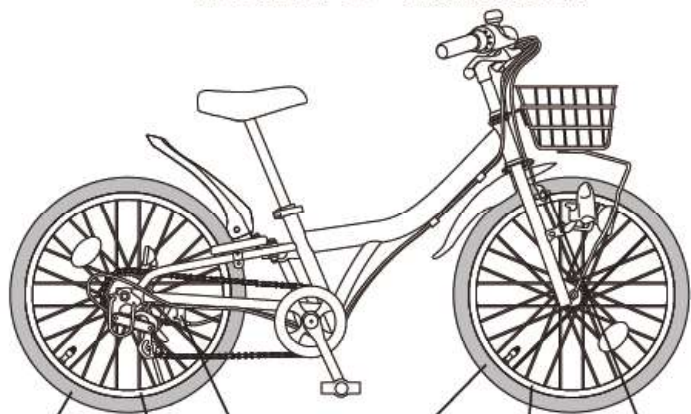


この記号の箇所は注油禁止箇所です。絶対に「油」や「グリス」を付けしないでください。



タイヤにワックスや油を付けしないでください。ひび割れが生じます。

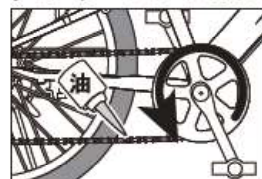
■注油禁止箇所 下記の注油禁止マークのある箇所には絶対に注油しないでください。特にリムやブレーキゴムなど制動面には注油しないでください。ブレーキが効かなくなります。



- タイヤ 注油禁止
- リム 注油禁止
- 後ろブレーキ 注油禁止
- タイヤ 注油禁止
- リム 注油禁止
- ブレーキゴム 注油禁止

#### ■注油箇所

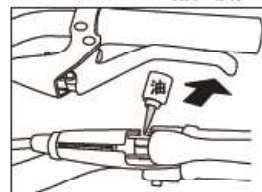
チェーン クランクを回しながら注油



※チェーンには油を付けすぎないでください。付けすぎた油は拭き取ってください。（埃が付き寿命が短くなります。）

ブレーキワイヤ（前・後）

ワイヤの可動部に注油



※ブレーキレバーのワイヤ固定部に注油を怠らないでください。

#### 変速機

可動部と歯車に注油



## [日常の保管]

- 雨が降らない乾燥した場所に保管してください。雨のかかる所では市販の「サイクルカバー」を使用してください。
- ※ 長期間保管後再使用される場合は、自転車店で点検整備の上（有料）、ご使用ください。
- 盗難防止のために、鍵をかけて保管してください。

## [こんなときどうするか]

1. 転倒したら…フロントフォーク、ハンドルが変形することがあります。自転車を横から見て調べてください。また、ハンドル、ブレーキレバー、ペダル、変速機をぶつけ、傷つけることがございます。特にハンドル、ブレーキレバーの変形や折損などに注意してください。
2. バンクしたら…バンクしたまま乗り続けるとリム、タイヤチューブを破損させます。必ず降りて押してください。自転車販売店で修理（有料）してください。<右記のバンクの原因にご注意ください。> ①クギ、ガラスの破片などを踏んだ時。②道路の穴に落ちたり、段差などに乗り上げた時。③空気圧の不足。
3. 交通事故…万一、交通事故を起こした場合は、相手が歩行者、自転車、自動車を問わず、応急処置の後、すみやかに警察に通報してください。事故処理等の一切は、警察官の指示に従ってください。自転車には思わぬ負荷がかかっています。そのまま乗り続けることはしないでください。
4. ブレーキの故障やブレーキワイヤが切れた時…ブレーキが効かない状態での走行は大変危険です。必ず降りて押してください。近くの自転車販売店で修理（有料）してください。
5. 異常を感じた時…日常点検および、走行中に異常を感じた時は、速やかに自転車販売店で点検整備（有料）をお受けください。

★保険に加入しましょう…万が一のため、対人対物賠償保険に加入しましょう。

## 自転車の廃棄について

自転車を廃棄する時は、お住まいの市町村で決められたルールに従って適切に処分してください。決して放置しないでください。

## 7) 防犯登録について

防犯登録は、改正自転車法により、平成6年6月20日より義務付けられています。

- 防犯登録とは、自転車の盗難被害の防止、盗難車の早期発見、また盗難自転車を使用した犯罪防止等のため「その自転車が誰のものであるかを公的に証明する手段」で、放置されている自転車をきちんと所有者の元へ返却するのが目的です。防犯登録は、自転車本体に刻印されている車体番号（車体刻印番号）や塗色、メーカー等の自転車のデータとその所有者の氏名、住所、電話番号を一括して登録するシステムで、名前を書いただけのものより戻ってくる可能性は高いこととなります。
- 防犯登録は、盗難保険ではありません。あくまでも盗難車を所有者に返却するのが目的ですので、代替車両の給付、また金銭による補償は受けられません。
- 防犯登録の有効期限は各都道府県により異なります。但し、譲渡、廃車のときは、抹消書の提出、引っ越し等で住所、氏名、電話番号が変わったときは登録変更届を提出してください。
- 盗難にあってしまったら、警察に被害届を出してください。発見された盗難車は被害届けに照合して所有者に返却されます。その際、防犯登録カードの控えが必要となります。保証書と共に必ず保管しておいてください。

## 8) 定期点検用チェックリスト

- ご購入後2ヶ月時点で1回目を、その後1年ごとに実施して下さい。
- 点検・整備はお早めに自転車店等に依頼されることをおすすめします。（有料）

点検項目	2ヶ月時点初期点検	1年ごと	1年ごと	1年ごと	1年ごと
	年 月	年 月	年 月	年 月	年 月
① 体格に合った調整がされているか。 ● サドルにまたがって両足先が地面に届くか。 ● ハンドルの高さは適当か。					
② 以下の部分は確実に固定できるか。 ● ハンドルにガタ付き、ゆるみはないか。 ● サドルにガタ付き、ゆるみはないか。					
③ フレーム・フロントフォークに変形や亀裂などはないか。					
④ ヘッド・ハンガー小物にガタ・磨耗はないか。					
⑤ ブレーキゴム類の消耗品はすり減っていないか。					
⑥ ブレーキレバーの間隔は正常か。前後のブレーキはよく効くか。					
⑦ 車輪のぶれ、スポークのゆるみ・曲がり、軸部のガタ付きはないか。					
⑧ チェーンのたるみ・張りは適正か。					
⑨ タイヤの空気圧は適正か。すり減っていないか。外観に異常はないか。					
⑩ クランクに曲がりはないか。チェーンホイールは滑らかに回転し、ガタはないか。					
⑪ ペダルは滑らかに回転するか。ガタ付き、異音はないか。					
⑫ ペダルとクランクは直角になっているか。					
⑬ ベルはよく鳴るか。ゆるんでいないか。					
⑭ 泥よけ、前カゴはしっかりと取り付けられているか。					
⑮ スタンドの安定性は正常か。ガタ付き、ゆるみはないか。					
⑯ 各部のクイックレバー、ネジ類のゆるみ、脱落箇所はないか。					
⑰ フリーホイールの回転と注油はよいか。					
⑱ チェーンケースの形状と取り付けはよいか。					
⑲ ライトは点灯するか。ネジはゆるんでいないか。					
⑳ リフレクターはこわれていないか。汚れていないか。					
㉑ ギアチェンジは正確に作動するか。また、チェーンがはずれないか。					
㉒ 錠の取り付けと機能はよいか。					
㉓ 補助輪は正しい位置にしっかりと固定されているか。					
定期点検・調整を実施した専門店ならびに年月日	印 年 月 日	印 年 月 日	印 年 月 日	印 年 月 日	印 年 月 日

※ 点検時期以外であっても異常を感じた場合は上記の点検を実施して調整・修理して下さい。